

第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

○全体的な趣旨、構成について

- ・来年は福島の復興が飛躍的に進むかどうかの分岐点であり、この分岐点に「大きく飛躍させよう」という思いを込めたメッセージを出していきたい。
- ・起草委員会も12年になる。メッセージをどのように出すのかを考え始めたがなかなか難しい。文面や構成などタイプを変えても良いのでは。
- ・10年間以上、県民は頑張って努力して戦ってきた。そういう頑張ってきた人たちへのエールが感じられると良い。
- ・色々な意味の厳しいところや辛いところがあるということをきちんと伝えた方が、福島の現状が相手に届く。
- ・非常に大きな地震が発生した際にいつでもどこでも対応できるようにシステムを整備するよう私たちは提言していなければならぬ。
- ・具体的に分かりやすく皆さんに提言することが非常に大切。
- ・自分のふるさとの地形をしっかりと心に刻みつけておくということは非常に大事なこと。
- ・いろんなところに避難している人達等、12年経ってふるさとを思う気持ちが強くなっている人がいることを忘れてはいけない。
- ・浜通りはいろんな事があるが、浜通りだけではなく福島県全体が良くなっているということを盛り込みたい。
- ・皆さんが震災で得た教訓があるはずなので、それが活かされているということを再認識できるようなメッセージも良い。
- ・東日本大震災という福島が大きく変わったことに対して知事がどうメッセージを出すのか、今どう変わったのか、というところ出すことを忘れてはいけない。

○入れ込むべき内容について

- ・「被災の地」から「希望の地」に変えていくということが一つのキーワードになる。
- ・諦めたことをもう一度やってみよう、という気持ちになってもらえるようなメッセージになると良い。
- ・住民を区分けしないというのはすごく重要な要素。
- ・チャレンジというキーワードは良いが、単にチャレンジするというよりもっと加速して、新しい風を吹かせてほしいという前向きさをしっかり出してほしい。
- ・一概にいきなり帰還ということではなく、避難者の方々の目線で、そう焦らなくてもいいよと、しっかりとじっくりとふるさとの今を理解してもらいたいな、というようなメッセージを盛り込めると良い。

- ・これからの福島県はここに住めば健康になるという明るい見通しがメッセージの中に入ってくると良い。
- ・後ろを走っている、懸命にやっているがなかなかついていけない、自分を取り戻せない方々に伝わるような言葉があると良い。
- ・諦めた事をやっていこうというような希望や挑戦がイメージ出来たら素晴らしいメッセージになる。
- ・IターンやUターンの方々の話を聞くと、福島をすごく楽しんでいて、福島ってやはりチャレンジが出来る県だということと、農家さんや観光も含めて本当に若い力が必要な県だということをそういう方々に会う度に感じている。
- ・人口減は他の県よりも確実に進んでいる。そう考えると若い人の力が必要。震災があったことによって若い人は福島のことを好きになっただろうし、何とかこのメッセージを読んだら移住してくれないかと真剣に考えている。

○メッセージの発信について

- ・3.11の知事メッセージは、東日本大震災のメッセージだということを忘れてはいけない。